

第 592 回：論文やレポートの書き方について（6）（DM）

みなさんこんにちは。LA 毎週月曜 12 時～15 時担当、博士課程 2 年の DM です。

今回は、問題設定をするためにどんな準備が必要か、私のレポート作成を例にして、説明していきます。

レポート（論文）の問題設定は、単に思いついた問題を設定するのではなく、既に行われた議論（先行研究）に根ざした問題を設定するものです。つまり、自分がどんな議論を参照したのか、データとして証拠を出す必要があるのです。

私のレポートの場合、谷崎の「含蓄」から問題設定をしたいわけですから、それならば、谷崎の『文章読本』の「含蓄」がこれまでどのように議論されてきたか、資料の中からデータを集める必要があります。このデータが、私が「含蓄」で問題設定をする根拠となるのです。

データとは、第三者が確認することのできる客観的な情報のことです。たとえば、A という人が「谷崎は凄い」と書くのは感想ですが、それを「A 氏の感想」として第三者が読むならば、それは「谷崎は凄い」と A が述べている」というデータになります。

学期末レポートの作成期間は長くても一ヶ月程度ですから、無計画に資料を読み漁る時間の余裕はありません。ある程度は自分で予想して、計画的にデータを集める必要があります。

私の場合、現時点での調査対象は「谷崎潤一郎の『文章読本』における「含蓄」」でした。ここから自分に必要なデータを予想してみると、おそらく、1) 谷崎潤一郎について、2) 『文章読本』について、3) 『文章読本』の

「含蓄」について——これらがどんな議論でどのような点で重要なのかを示すデータになると思われます。

そうならば、大学図書館で借りるべき資料は、1) 谷崎について言及している近代日本の文学史、2) 『文章読本』について言及している谷崎潤一郎論、3) 「含蓄」について言及している『文章読本』論——これらの資料ではないかと予想できます。「3」はそもそも資料があるのかどうか私には分からないので、そこを調べたいところです。

これらの計画は、もちろん、仮のものであります。資料を読み込みながら、必要に応じて、適宜に修正を加えていけばよいのです。

最初に述べましたように、レポートで設定すべき問題は、先行研究の議論に根ざした問題であります。ですから、どんな問題を設定すべきか自分で考えられるようになるのは、これまでにどんな議論があったのかをデータとして知った後のことなのであります。自分で考える力はとても大事なのですが、その力をいつ使うべきなのかということも、それと同じぐらいに大事なのです。

テーマ選びは「範囲を狭めるほど、仕事は良くなり、基盤がしっかりする」（エコ 1991:17）ものです。そして「卒論の出来は問題を絞ることができたかで九九%決まる」（戸田山 2022:78）ものです。よい論文（レポート）を書くためには、まさにここが頑張りどころなのです。

というわけで、今回の LA 通信はここまでです。次回は、ここで立てた計画に沿って、実際に問題設定を行います。みなさま、どうぞよろしくお願いいたします。

第 592 回：論文やレポートの書き方について（6）（DM）

参考文献

エコ，ウンベルト（1991）『論文作法』（谷口勇訳）而立書房

戸田山，和久（2022）『論文の教室：レポートから卒論まで』（NHK ブックス；1272）NHK 出版